

### 第3回 医療イノベーション会議幹事会

日時： 2012年9月4日(火)17:00-17:30

場所： 内閣府本府5階 第5特別会議室

参加者： 古川 元久 国家戦略担当大臣  
座長 石田 勝之 内閣府副大臣(国家戦略担当)  
構成員 後藤 斉 内閣府副大臣(科学技術政策担当)  
奥村 展三 文部科学副大臣  
辻 泰弘 厚生労働副大臣  
森田 高 総務大臣政務官  
中根 康浩 経済産業大臣政務官  
本多 平直 総理大臣補佐官  
事務局 松本洋一郎 医療イノベーション推進室長  
資料： 資料1 出席者  
資料2 医療イノベーションの一体的推進

#### 1. 開会の挨拶

(古川大臣)皆様のご協力のおかげで、医療イノベーション5か年戦略を策定し、日本再生戦略にも盛り込むことができた。今後は、この戦略を確実に実行することにより、最新の医療環境、そして我が国の経済成長、さらには日本の医療の世界の発信を実現してまいりたい。

この戦略をしっかりと実行していくため、来年度の予算要求は、5か年戦略決定後の初めての予算要求に当たるので、予算編成の過程から医療イノベーション推進室が中心となって、各府省横断的に予算編成に取り組んでいかなければならない。

今般の概算要求に先立ち、医療イノベーション推進室が中心となって、各省の垣根を超えた要求内容の横串調整を進めているので、今日は松本室長からこの点を御説明いただく。こうした取り組みは、この分野にかかわらず進めている概算要求前の府省横断的な調整の先行モデルの一つとなるものであり、医療イノベーションとグリーン成長戦略の2つの部分については、私の責任で各府省横断的な予算要求を行っていく。そのために政務の皆様方のお力をお借りしたい。

今日の議論を踏まえて、政務の皆様方が各府省の要求内容について、本日御説明のある視点に立って、施策の重複がないかどうか、必要な政策にちゃんと必要な要求額を要求されているかどうか、しっかり御精査をいただきたい。

#### 2. 資料説明

松本室長より、資料2に基づいて「医療イノベーションの一体的推進」を説明。

#### 3. 各構成員からの発言

(辻厚生労働副大臣)厚生労働省としては、創薬支援ネットワークの本部機能として不可欠な創薬支援戦略室を医薬基盤研究所のもとに設置することによる実用化の支援、また、がんや難病を初めとする重点領域の創薬研究開発の推進、再生医療製品や革新的医療機器についての実用化に向けた研

究開発の支援などに重点を置いた来年度予算要求を行わせていただき、その実現を目指している。今後とも国家戦略室、医療イノベーション推進室並びに各省と連携協力を図りながら、医療イノベーションの推進に全力で取り組んでまいりたい。

(奥村文部科学副大臣) 文部科学省は、大体基礎研究フェーズが主なところだが、その中で特に再生医療については、京都大学のiPS細胞研究所を中核として、疾患・組織別に責任を持った再生医療の実現を目指す複数の研究拠点とネットワーク化を図りたい。

先ほど御説明があった創薬支援ネットワークの点については、厚労省あるいは経産省と連携をとりながら、理化学研究所を中心として創薬のネットワークの構築を目指している。

個別化医療については、東北メディカル・メガバンク計画とオーダーメイド医療、つまり、患者さんの実現プログラムの相互連携を図りつつ推進する予定。

最後に、医療機器につきましては、日本初の重粒子線がん治療技術の高度化、海外展開へ向けた研究開発を放射線医学総合研究所において実施していきたい。

いずれにしても、冒頭で申し上げたように、基礎研究フェーズが主だが、関係省庁との連携を強力に推し進めていきたい。

(森田総務大臣政務官) まず、先般の医療イノベーション5か年戦略と今次の25年度概算要求への取りまとめに当たって、医療イノベーション推進室に強いリーダーシップをとってもらったことに御礼申し上げる。

総務省においては、5か年戦略に掲げられているオールジャパン体制での医薬品や医療機器の創出に関して、不可欠な土台と位置づけられるICT施策をしっかりと進めてまいりたい。

具体的には、個別化医療の実現及び被災地の医療復興計画を支える基盤としての東北メディカル・メガバンク計画の実現に必要なEHRの構築、そして従来からやっている延長線上で、通信ネットワーク、医療機器、モバイル端末等を活用した先進的な在宅医療・訪問介護を支えるICTシステムを確立するための実証プロジェクトの推進、そして、文科省とも共同でやらせてもらっている脳科学の知見を応用した、高齢者・障がい者などの社会参加の拡大を促す意義のある研究開発を促進してまいりたい。

今後は総務省としても、医療イノベーション推進室のリーダーシップのもとで、5か年戦略そして日本再生戦略の確実な実現に向け、ICTという大きな政策の中で、国民に身近な医療、あるいは介護を結びつけていくという仕事をしっかりと果たしてまいりたい。

(中根経産大臣政務官) 経産省としても、ライフ分野は今後の我が国の経済成長、雇用を支えることが期待される分野だと認識しているので、当該分野の発展に積極的に貢献してまいりたい。

個々の分野については、今後5年で医薬品・医療機器の約2兆円の大幅な貿易赤字を改善し、医療産業の市場拡大あるいは成長を促し、日本経済をリードする産業にするための象徴的プロジェクトとして、1つ目はIT創薬技術等による次世代医薬品の創出基盤整備や、再生医療の実用化に向けた産業基盤の整備、2つ目はがん診断・治療機器などの革新的な医療機器等の開発、3つ目は新興国等を対象とした医療サービスと医療機器を一体とした国際展開などのアウトバウンドや良質な日本医療を理解してもらうためのインバウンドなどの国際展開を行ってまいりたい。

さらに、こうした医薬品・医療機器の開発を支える中小企業を次のとおりに支援してまいりたい。1つは、日本のものづくりのさらなる高度化の支援。2つ目は、異分野の中小企業の連携によるライフ分野における新事業活動の促進。3つ目は、バイオ分野での中小企業あるいはベンチャーの育成。

併せて、高齢者の自立支援と介護者の負担軽減という社会的課題を解決するため、以下の支援を行いたい。1つ目は、ロボット介護機器の開発・実用化。2つ目は、医療・介護周辺サービスの創出。つまり、新産業あるいは新サービスを供給し、疾病予防や介護予防などの期待に応えていきたい。

こうした取り組みを進める上で、規制改革、制度改善を一体的に進めることが極めて重要。

#### 4. 閉会の挨拶

(石田副大臣)本日の会議をもとに、医療イノベーション推進室長を中心に、関係各省と連携して5か年戦略をさらに進めていく。副大臣・政務官には、5か年戦略に必要な概算要求額の確保と重複排除の徹底をお願いしたい。また、幹事会については、概算要求後も、同分野の横串調整をするため適宜開催する予定なので、ご協力をお願いしたい。

(古川大臣)医療イノベーション5か年戦略は注目度が高く、小宮山厚生労働大臣からもしっかりやって欲しいと言われている。松本室長の指示が国家戦略担当大臣からの指示だと思ってやってほしい。5か年戦略を実現する第一歩の予算なので、しっかりした横串のある、戦略的な予算を組んで欲しい。よろしく申し上げます。

以上